

**DAIFUKU**

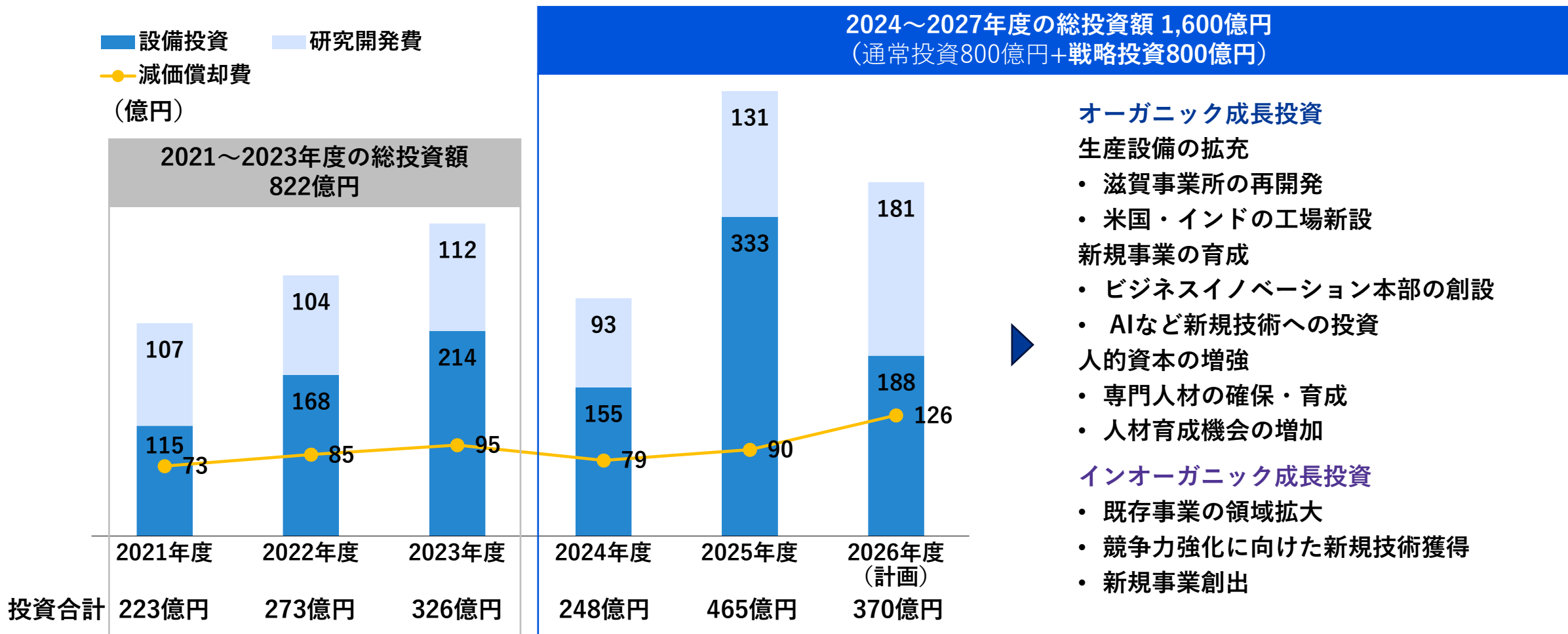
Automation that Inspires

# 2030年売上高1兆円に向けた成長投資について

2026年5月28日

株式会社ダイフク [6383]

長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」のありたい姿である売上高1兆円を実現するために、「2027年中期経営計画」では、通常の設定備維持更新投資や研究開発費と別枠の位置付けとなる**戦略投資枠800億円**を設定しています。



## 2027年中期経営計画

### オーガニック成長投資

生産設備の拡充  
(310億円)



#### 滋賀事業所再開発への投資（約220億円）

マザー工場である滋賀事業所で生産能力の増強、工場物流の最適化などを目的とした再開発を実施

新規事業の育成



#### イントラロジスティクス事業でグローバル生産基盤の拡充（約90億円）

- ・ 米国で生産能力を**2倍**に増強（写真）
- ・ インドで生産能力を**4倍**に増強

人的資本の増強



#### 先端技術を探索から実装へつなぐ研究開発体制の整備

- ・ 京都Lab（2027年に90名体制へ）  
各事業での研究開発

### インオーガニック成長投資

M&Aなど



- ・ 東京Lab（2027年に50名体制へ）

フィジカルAIやロボティクスなどの中長期的な研究開発

※イントラロジスティクス事業：一般製造業・流通業向けシステム

2026～2029年

オーガニック成長投資

生産設備の拡充  
(約400億円)

新規事業の育成

人的資本の増強

滋賀事業所再開発への継続投資 (約300億円)  
新棟2棟を計画

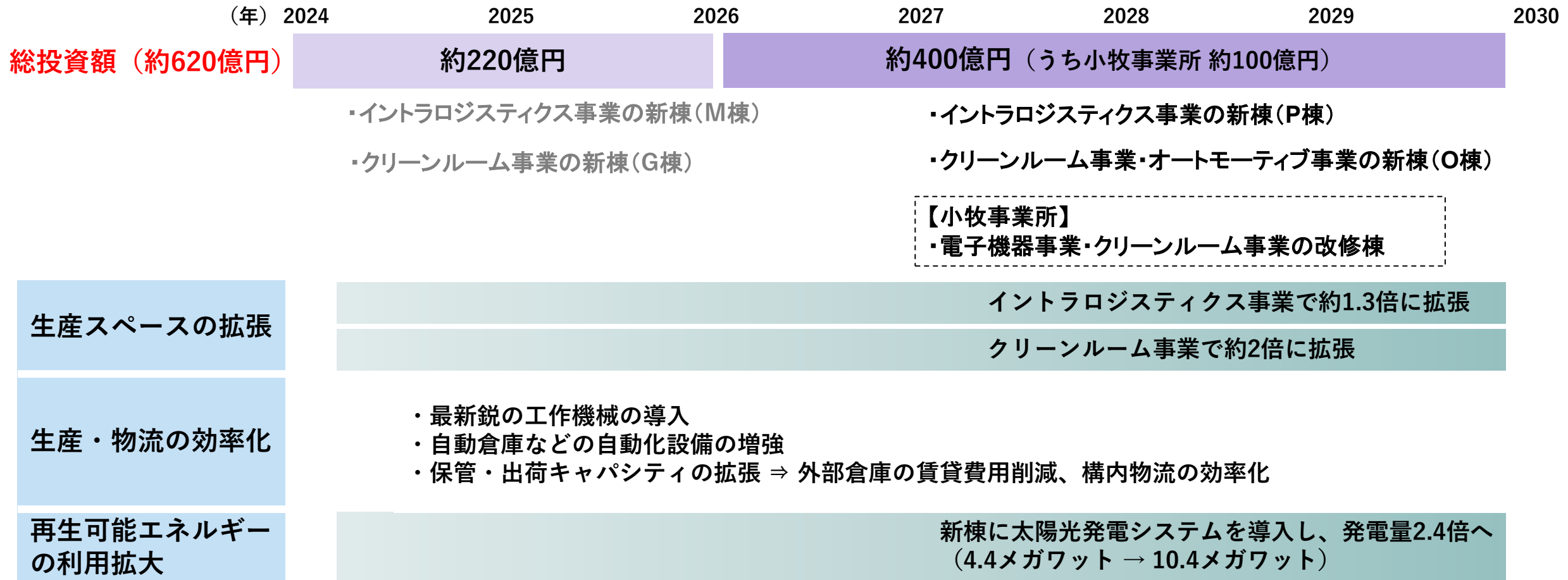
小牧事業所再編への投資 (約100億円)  
既存1棟の全面改修を計画

オートモーティブ事業で  
ドイツのEISENMANN (アイゼンマン) を100%子会社化 (約120億円)  
※M&Aは継続して検討 (+  $\alpha$ )

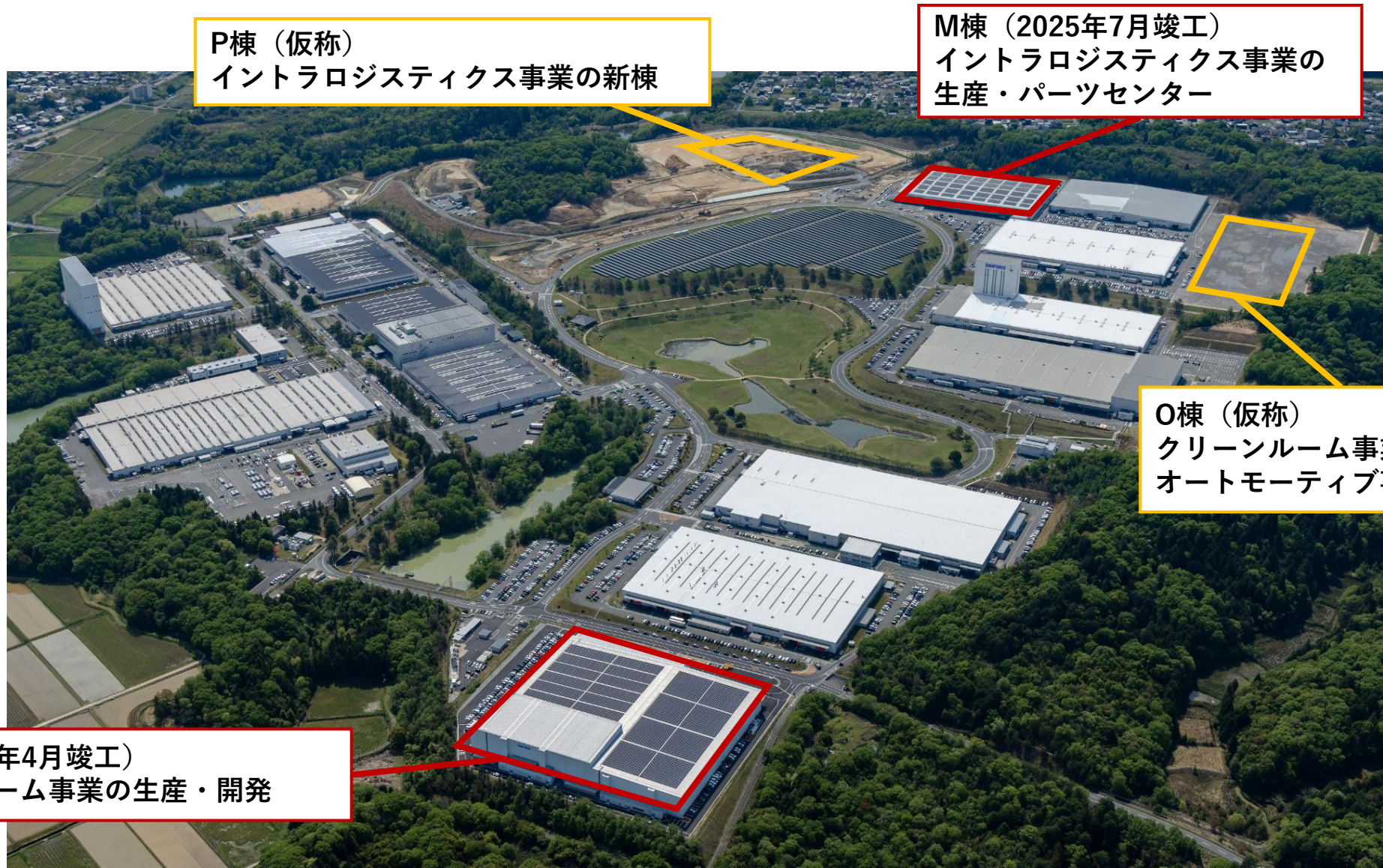
インオーガニック成長投資

M&Aなど  
(約120億円 +  $\alpha$ )

※オートモーティブ事業：自動車生産ライン向けシステム



※イントラロジスティクス事業：一般製造業・流通業向けシステム  
 ※クリーンルーム事業：半導体生産ライン向けシステム  
 ※オートモーティブ事業：自動車生産ライン向けシステム



P棟 (仮称)  
イントラロジスティクス事業の新棟

M棟 (2025年7月竣工)  
イントラロジスティクス事業の  
生産・パーツセンター

O棟 (仮称)  
クリーンルーム事業と  
オートモーティブ事業の新棟

G棟 (2026年4月竣工)  
クリーンルーム事業の生産・開発

2026～2029年

オーガニック成長投資

生産設備の拡充  
(約400億円)

新規事業の育成

人的資本の増強

インオーガニック成長投資

M&Aなど  
(約120億円 +  $\alpha$ )

オートモーティブ事業で

ドイツのEISENMANN（アイゼンマン）を100%子会社化（約120億円）

- 欧州規格・顧客要件への対応力強化
- 塗装設備と搬送システムの補完関係による統合提案力向上
- 自動車生産ライン分野での受注機会拡大・競争力強化



※オートモーティブ事業：自動車生産ライン向けシステム

# DAIFUKU

Automation that Inspires

## 将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する目標、信念、計画等は、過去の事実ではなく、最新の情報から判断した経営陣の想定や信念に基づく事業見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでいます。実際の業績は、さまざまな重要要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要要素としては、1) 当社グループの経営環境における消費者動向および経済情勢、2) 米ドルその他の通貨建ての売上・資産・負債に対する円為替レートの影響、3) コスト上昇や販売の抑制につながる安全その他に関する法令等の規制強化、4) 災害・戦争・テロ・ストライキ・疾病等の影響などが含まれます。なお、当社グループの業績に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。